

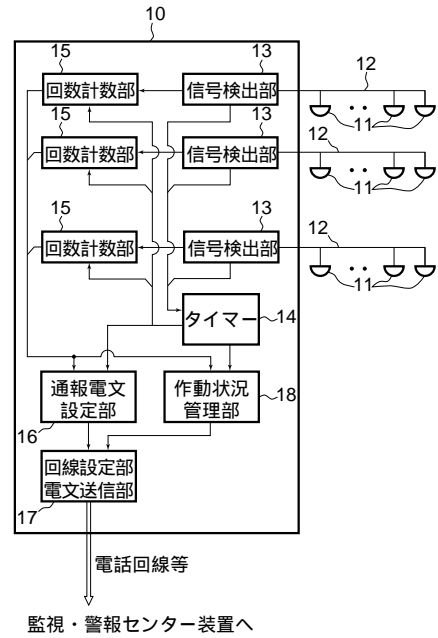
本発明は、電話回線やISDN回線または専用線等を利用して遠隔の建物や設備等を監視し、異常を検出するとその内容を通報する監視・警報システムにおける監視端末制御装置に関するものである。

従来の監視・警報システムは、センサが異常発生を検知して1回でも作動すると、その緊急性から即座に監視・警報センター装置に通報する。しかし、センサは数多く設置されており、センサの中には故障等による誤検知が発生するので、それら誤報発生防止のために、センサによる通報事象発生検知の有効時間帯の設定やセンサの検知信号レベル判定等の対策を講じていたが、それでも誤報が発生する問題が生じていた。

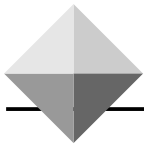
本発明は、センサ11作動後のあらかじめ設定した所定時間内のセンサ作動回数を計数する回数計数部15と、センサ作動回数を含む通報電文を設定する通報電文設定部16と、センサ作動回数を含むセンサ作動状況の履歴を記録する作動状況管理部18と、センサ作動回数を含む通報電文またはセンサ作動状況の履歴を、監視・警報センター装置に回線網を介して通報する回線設定部および電文送信部17とを備えている。

このように、すべてのセンサの作動回数を含むセンサ

作動状況を通報することにより、監視・警報センター側では、誤報か真の警報であるかを、より正確に判定することができる。



本発明の実施形態の構成図



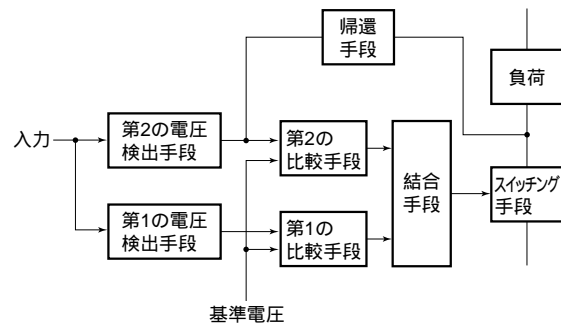
本発明は無停電電源装置や電源監視システムにおいて、停電時のバッテリーバックアップ検出や、停電処理シーケンスへの切替えなどに使用するものである。

従来は、一つのコンパレータで停電と復電を同時に検出していたが、この方法は多数の抵抗を使用するため、抵抗偏差によって停電と復電の検出電圧レベルがばらついていた。そこで可変抵抗等を追加して検出レベルを調整してばらつきを抑える必要があった。

本発明は入力電圧の検出に二つのコンパレータを使用しているところに特長があり、その二つのコンパレータをそれぞれ停電用と復電用に分け、必要最低限の部品で回路を構成している。

その結果、停電と復電の検出電圧レベルが部品偏差の影響を受けにくい上、入力電力のレギュレーションやひずみ率にも影響されない精度の高い検出が可能になる。

このように精度の高い検出ができるため、出荷時の調整が不要となり、信頼性の向上、人件費の削減にも貢献することができる。



本発明の原理的構成を示す図